特別講演　物性物理学の30年

慶応義塾大学　理工学部　　久保亮五教授

夏の学校30周年にちなんで物性研究の発展を振り返ってみよう，と久保亮五先生に特別講演をお願い致しました。

久保先生は，1945年から今日までの40年間を10年ごとに4つの時代に分け，戦時研究から基礎研究に戻った第0期，理論が先行する一方で物性研が設立された第1期，Solid State PhysicsからPhysics of Condensed Matterへ転換しつつあった第2期〝紛争の時代〟，巨大化が進む今日までの第3期，と各時代を総括した上でその代表的研究の解説をして下さいました。

そして，今日では勉強すべき事が非常に多くなってきているが，勉強するのも程々にしていい研究テーマを選ぶよう努力することが大切だとおっしゃいました。それに対する〝それでは今後どういう研究が流行するか〟，という質問にお答え頂けなかったのが残念でしたが，技術指向が強まっていくだろうと指摘されました。

また，講演の冒頭で見せて頂いた1950年代初頭という私たちにとって「神代の時代」の久保先生御自身や，Anderson, Onsager, Bardeenなどの姿に約200名の聴衆から感嘆の声が上がったことを付け加えておきます。

最後になりましたが，お忙しいところ志賀高原までお越し下さった久保先生に深く感謝致します。

（文責・古谷野　有）

4）サブゼミの報告

サブゼミ　「誘電体」

今年の〝誘電体〟は，これまでの相転移の考え方の見直しをしようとする事をテーマとし，お二人の講師の先生方をお呼びしました。そのせいか，三十数名の参加者が集まり，大盛況のうちに無事終える事ができました。先生方には，M1の人にもわかるように相転移の基本から丁寧にお話しして頂き，また最先端のお話までテーマに沿って一貫した，なおかつ興味深いお話をして頂きました。今回の〝誘電体〟は，M1の人からドクターの人まで幅広く面白く聞かれたことと自負しております。また，活発な質問，討論もあり，充実した二日間でした。これも一重に，お忙しい中おいで下さった富永，堀岡両先生と落合さんのおかげです。今年初めて来られたM1の方々も，これを機会に相転移についてより一層の問題意識をもって研究されて